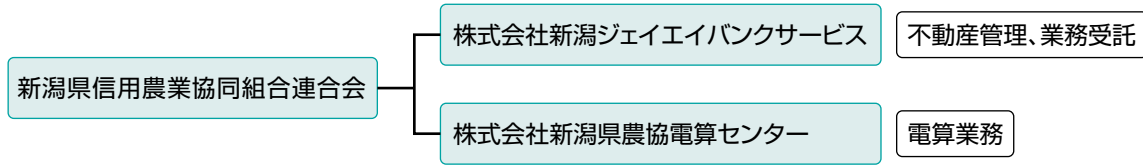


連結情報

グループの概況

グループの事業系統図

当会及び子会社等の総合力で、県内系統信用事業（JAバンク新潟）等の円滑な業務運営に努めています。



子会社等の状況

会社名	業務内容	所在地	設立年月日	資本金 (百万円)	当会の 議決権比率	当会及び 他の子会社等の 議決権比率
株式会社 新潟ジェイエイバンクサービス	不動産管理、当会の定 型的後方業務の受託	新潟市中央区東中通 一番町189番地3	昭和39年11月26日	86	100.00%	100.00%
株式会社 新潟県農協電算センター	県下JAグループの電算 機による情報処理	新潟市中央区新光町 6番地5	昭和50年10月1日	497	16.51%	16.51%

連結事業概況（平成30年度）

■事業の概況

平成30年度の当会の連結決算は、子会社株式会社新潟ジェイエイバンクサービスを連結し、関連法人等株式会社新潟県農協電算センターに対して持分法を適用しています。

連結決算の内容は、連結経常収益19,914百万円、連結当期剰余金3,987百万円、連結純資産150,537百万円、連結総資産1,969,369百万円で、連結自己資本比率は15.48%となりました。

■連結子会社の事業概況

株式会社 新潟ジェイエイバンクサービス

当会からの業務受託と不動産管理事業等の実施により、事業は順調に推移し、当期純利益13百万円を計上しました。

株式会社 新潟県農協電算センター

JAグループの電算機による情報処理業務の受託をはじめとした各事業は順調に推移し、当期純利益89百万円を計上しました。

最近5年間の連結事業年度の主要な経営指標

(単位：百万円、%)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
連結経常収益	19,583	20,010	19,620	19,321	19,914
連結経常利益	6,776	6,282	5,995	4,917	4,727
連結当期剰余金	5,471	5,030	4,865	4,521	3,987
連結純資産額	125,398	127,980	147,322	148,480	150,537
連結総資産額	1,731,031	1,783,116	1,838,618	1,917,799	1,969,369
連結自己資本比率	22.74	21.71	20.75	19.32	15.48

(注) 1. 連結総資産額には、債務保証見返勘定が含まれています。

2. 「連結自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農林水産省告示第2号)に基づき算出しています。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	平成29年度 (平成30年3月31日現在)	平成30年度 (平成31年3月31日現在)	負債及び純資産の部	平成29年度 (平成30年3月31日現在)	平成30年度 (平成31年3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
現金	2,906	2,546	貯金	1,683,016	1,733,882
預け金	1,069,128	1,048,126	譲渡性貯金	10,000	—
金銭の信託	32,765	40,795	借入金	58,200	66,200
有価証券	483,492	527,039	その他負債	1,179	2,297
貸出金	244,086	249,789	諸引当金	3,231	3,290
その他資産	2,841	2,406	退職給付に係る負債	852	795
有形固定資産	2,984	2,966	繰延税金負債	7,724	7,790
建物	1,800	1,774	債務保証	5,114	4,575
土地	1,105	1,105	負債の部合計	1,769,318	1,818,832
その他の有形固定資産	78	86	(純資産の部)		
無形固定資産	74	86	出資金	56,296	56,296
ソフトウェア	68	80	資本剰余金	0	0
その他の無形固定資産	6	6	利益剰余金	71,329	72,844
外部出資	75,898	92,431	会員資本合計	127,625	129,141
債務保証見返	5,114	4,575	その他有価証券評価差額金	20,854	21,396
貸倒引当金	△1,494	△1,395	評価・換算差額等合計	20,854	21,396
			純資産の部合計	148,480	150,537
資産の部合計	1,917,799	1,969,369	負債及び純資産の部合計	1,917,799	1,969,369

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	平成29年度 (平成29年4月 1日から 平成30年3月31日まで)		平成30年度 (平成30年4月 1日から 平成31年3月31日まで)	
経 常 収 益	19,321		19,914	
資 金 運 用 収 益	16,982		16,557	
貸 出 金 利 息	3,016		2,934	
預 け 金 利 息	139		113	
有 価 証 券 利 息 配 当 金	7,023		5,890	
そ の 他 受 入 利 息	6,803		7,619	
(うち受取奨励金)	(6,069)		(6,871)	
(うち特別配当金)	(733)		(747)	
役 務 取 引 等 収 益	317		313	
そ の 他 事 業 収 益	757		1,291	
そ の 他 経 常 収 益	1,262		1,751	
経 常 費 用	14,403		15,186	
資 金 調 達 費 用	9,424		10,461	
貯 金 利 息	1,132		1,100	
譲 渡 性 貯 金 利 息	5		4	
借 用 金 利 息	242		242	
そ の 他 支 払 利 息	8,043		9,113	
(うち支払奨励金)	(8,041)		(9,110)	
役 務 取 引 等 費 用	332		358	
そ の 他 事 業 費 用	1,004		695	
経 費	3,363		3,395	
そ の 他 経 常 費 用	277		276	
(うち貸倒引当金繰入額)	(51)		(-)	
経 常 利 益	4,917		4,727	
特 別 損 失	1		4	
固 定 資 産 処 分 損	1		4	
税 金 等 調 整 前 当 期 利 益	4,916		4,723	
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	18		872	
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 還 付 額	△212		-	
法 人 税 等 調 整 額	589		△136	
法 人 税 等 合 計	395		735	
当 期 利 益	4,521		3,987	
当 期 剰 余 金	4,521		3,987	

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	平成29年度 (平成29年4月 1日から 平成30年3月31日まで)		平成30年度 (平成30年4月 1日から 平成31年3月31日まで)	
(資 本 剰 余 金 の 部)				
資 本 剰 余 金 期 首 残 高	0		0	
資 本 剰 余 金 増 加 高	-		-	
資 本 剰 余 金 減 少 高	-		-	
資 本 剰 余 金 期 末 残 高	0		0	
(利 益 剰 余 金 の 部)				
利 益 剰 余 金 期 首 残 高	69,136		71,329	
利 益 剰 余 金 増 加 高	4,521		3,987	
当 期 剰 余 金	4,521		3,987	
利 益 剰 余 金 減 少 高	2,328		2,472	
配 当 金	2,328		2,472	
利 益 剰 余 金 期 末 残 高	71,329		72,844	

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	平成29年度 (平成29年4月 1日から 平成30年3月31日まで)		平成30年度 (平成30年4月 1日から 平成31年3月31日まで)	
1 事業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期利益		4,916		4,723
減価償却費		160		150
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		△ 1,522		△ 98
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		55		△ 56
その他の引当金・積立金の増減額 (△は減少)		74		59
持分法による投資損益		—		△ 14
資金運用収益		△ 16,982		△ 16,557
資金調達費用		9,424		10,461
有価証券関係損益 (△は益)		1,570		750
金銭の信託の運用損益 (△は益)		△ 998		△ 1,315
外部出資関係損益 (△は益)		△ 13		2
為替差損益 (△は益)		△ 46		657
固定資産処分損益 (△は益)		1		4
貸出金の純増 (△) 減		△ 9,221		△ 5,703
預け金の純増 (△) 減		△ 55,000		△ 10,000
貯金の純増減 (△)		61,715		40,865
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減 (△)		17,800		8,000
資金運用による収入		18,046		17,603
資金調達による支出		△ 9,410		△ 9,748
事業分量配当金の支払額		△ 1,645		△ 1,689
その他		△ 674		916
小 計		18,251		39,010
法人税等の支払額		△ 1,215		△ 565
事業活動によるキャッシュ・フロー		17,035		38,444
2 投資活動によるキャッシュ・フロー				
有価証券の取得による支出		△ 69,613		△ 142,072
有価証券の売却による収入		32,375		31,137
有価証券の償還による収入		53,633		66,961
金銭の信託の増加による支出		△ 10,103		△ 9,105
金銭の信託の減少による収入		6,678		725
固定資産の取得による支出		△ 55		△ 148
外部出資による支出		△ 13		△ 16,520
外部出資の売却等による収入		13		—
投資活動によるキャッシュ・フロー		12,914		△ 69,023
3 財務活動によるキャッシュ・フロー				
出資配当金の支払額		△ 682		△ 782
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 682		△ 782
4 現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)		29,266		△ 31,361
5 現金及び現金同等物の期首残高		41,763		71,030
6 現金及び現金同等物の期末残高		71,030		39,669

■ 連結事業年度のリスク管理債権の状況

連結子会社等にリスク管理債権はありませんので、当会単体のリスク管理債権残高と同額です。

■ 事業の種類別情報

子会社の営む事業はグループ全事業に占める割合が僅少であるため、事業の種類別情報は記載していません。

●平成29年度注記表(連結)

1 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 連結の範囲に関する事項
連結子会社 1社 株式会社新潟ジェイエイバンクサービス
- (2) 持分法の適用に関する事項
持分法適用の関連会社 1社 株式会社新潟県農協電算センター
- (3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度に関する事項
連結子会社及び持分法適用の関連会社の決算日はすべて3月31日です。
- (4) のれんの償却に関する事項
のれんの償却については、発生年度に全額償却しています。
- (5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項
連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した剰余金処分に基づいて作成しています。
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲
連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」並びに「預け金」中の当座預け金、普通預け金、通知預け金です。

2 重要な会計方針に関する事項

- (1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の科目については「0」で表示しています。
- (2) 有価証券(外部出資決定の株式を含む)の評価基準及び評価方法は、有価証券の保有目的区分毎に次のとおり行っています。
 - ・ その他有価証券………時価のあるものについては、原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、原価法(売却原価は移動平均法により算定)によっています。
 - なお、取得価額と券面金額との差額のうち金利調整と認められる部分については償却原価法による取得価額の修正を行っています。
- (3) 金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価基準及び評価方法は、上記(2)の有価証券と同様の方法によるほか、運用目的の金銭の信託については時価法によっており、信託の契約単位毎に当連結会計年度末の信託財産構成物である資産及び負債の評価額の合計額をもって連結貸借対照表に計上しています。
- (4) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っています。
- (5) 有形固定資産の減価償却は、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、資産から直接減額して計上しています。また、主な耐用年数は次のとおりです。
 - ・ 建 物………38年～50年
 - ・ その他………5年～18年
- (6) 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しています。そのうち自社利用ソフトウェアについては、当会における利用可能期間(5年)に基づいて償却しています。

(7) 外貨建資産は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しています。

(8) 引当金の計上方法

①賞倒引当金

賞倒引当金は、「経理規程附属書 資産の償却・引当の計上基準」に則り、次のとおり計上しています。

正常先債権及び要注意先債権(要管理債権を含む)に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、賞倒実績率等に基づき算定した額を計上しています。

破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額、保証による回収可能見込額並びに債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積って算出した回収可能額を控除した残額を計上しています。

破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しています。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しています。

②賞与引当金

賞与引当金は、職員への賞与の支払に備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しています。

③役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員の退任給与の支給に備えるため、「役員退職慰労金規程」に基づき、当連結会計年度末要支給見積額を計上しています。

(9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、職員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における職員の自己都合退職の場合の要支給額を基礎として計上しています。

(10) ヘッジ会計の方法

リスク管理規程及びヘッジ取引の方針に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしています。

①為替変動リスク・ヘッジ

外貨建有価証券から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は時価ヘッジによっています。

ヘッジ有効性評価の方法については、ヘッジ手段である先物為替予約取引によりヘッジ対象である外貨建有価証券の為替変動リスクが低減されることを、為替相場の変動割合に基づく比率分析によって確認することで行っています。

(11) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という)の会計処理は、税抜方式によっています。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上していません。

3 連結貸借対照表に関する事項

- (1)有形固定資産の減価償却累計額は2,436百万円です。
有形固定資産の圧縮記帳額は194百万円です。
- (2)資産のうち為替決済等の担保として預け金30,000百万円、先物取引証拠金等の代用として有価証券1,039百万円を差し入れています。
- (3)当会の理事、経営管理委員及び監事との間の取引による金銭債権はありません。
- (4)当会の理事、経営管理委員及び監事との間の取引による金銭債務はありません。
- (5)貸出金のうち、破綻先債権額は39百万円、延滞債権額は959百万円です。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。
- (6)貸出金のうち、3か月以上延滞債権はありません。
なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しない貸出金です。
- (7)貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は268百万円です。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しない貸出金です。
- (8)破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,267百万円です。
なお、(5)から(8)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。
- (9)割引手形は、業種別監査委員会報告第24号に基づき、金融取引として処理しています。
これにより受け入れた商業手形は、自由に処分できる権利を有していますが、その額面金額は60百万円です。
- (10)当座貸越契約及び貸出金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約です。これらの契約に係る融資未実行残高は、113,472百万円です。
- (11)貸出金には、他の債権よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付貸出金33,040百万円が含まれています。
- (12)借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金30,000百万円が含まれています。

4 金融商品に関する事項

(1)金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当会は、新潟県を事業区域として、地元のJA等が会員となって運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であり、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

JAは、農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域へ貸付け、その残りを当会が預かる仕組みとなっています。

当会では、これを原資として、資金を必要とするJAや農業に関連する企業・団体及び県内の地場企業や団体、地方公共団体などに貸付を行っています。

また、残った資金は農林中央金庫に預け入れるほか、国債や地方債等の債券、投資信託、株式等の有価証券による運用を行っています。

②金融商品の内容及びそのリスク

当会が保有する金融資産は、主として県内の取引先及び個人に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、その他目的で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されています。

借入金には、自己資本増強の一環として、会員である地元のJAから借り入れた永久劣後特約付借入金が含まれています。

劣後特約付借入金は、債務返済の履行が他の債務よりも後順位である旨の特約が付された無担保・無保証の借入金であり、自己資本比率の算出において適格旧資本調達手段として経過措置により自己資本への計上が認められているものです。

デリバティブ取引には、為替リスクヘッジの一環で行っている先物為替予約取引があります。当会では、先物為替予約取引をヘッジ手段として、ヘッジ対象である外貨建有価証券の為替変動に係る損益を認識する方法(時価ヘッジ)を適用しています。

③金融商品に係るリスク管理体制

a 信用リスクの管理

当会は、リスクマネジメントの基本方針及び信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金の信用リスク管理については、個別案件毎の与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など、与信管理に関する体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、融資部及び農業部のほかリスク統括部(審査・管理業務担当)により行われ、また、定期的に理事会やリスク管理委員会を開催し、経営陣に報告を行っています。さらに与信管理の状況については、リスク統括部(リスク管理業務担当)がチェックしています。

有価証券の発行体の信用リスクに関しては、リスク統括部(リスク管理業務担当)において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

b 市場リスクの管理

(a) 金利リスクの管理

当会は、リスクマネジメントの基本方針及び金利リスクに関する管理諸規程に基づき、リスク統括部を主管部署として、当会の資産に占めるウェイトが大きく市場性資産として日々価格が変動する有価証券については毎営業日、貸出金、預け金及び貯金については月次でそれぞれ金利リスク量を計測・管理しています。

また、金利感応性のあるすべての資産・負債・オフバランスの金利リスク量についても、99パーセンタイル値の金利ショックによるリスク量を毎月計測・管理しています。

これらの情報については理事会及びリスク管理委員会において定期的に報告されています。

(b) 為替リスクの管理

当会は、為替リスクに関して、個別の案件毎に管理しており、必要に応じて先物為替予約取引によるリスクヘッジを図っています。

(c) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有については、リスク管理方針に基づき、理事会の監督の下、余裕金運用規程に従って行われています。

運用にあたっては、運用限度額を設定し、事前審査のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの管理を行っています。

これらの情報はリスク統括部を通じ、理事会及びリスク管理委員会において定期的に報告されています。

なお、総務部で保有している外部出資の多くは、業務上事業推進目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。

(d) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門や役割をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、リスクマネジメントの基本方針等に基づいて実施されています。

(e) 市場リスクに係る定量的情報

当会で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当会において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「貸出金」、「有価証券」のその他有価証券に分類される債券、「貯金」、「借入金」です。

当会では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当連結会計年度末現在、指標となる金利が0.20%上昇したものと想定した場合には、経済価値が5,517百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

c 資金調達に係る流動性リスクの管理

当会は、ALM委員会及び資金運用検討委員会を通じて、適時に資金管理を行うほか、市場環境を考慮した長短の調達バランス調整などによって、流動性リスクを管理しています。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価(時価に代わるものを含む)には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額(これに準ずる価額を含む)が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なる場合もあります。

(2)金融商品の時価等に関する事項

①金融商品の連結貸借対照表計上額及び時価等

当連結会計年度末における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。

なお、時価の把握が困難なものについては、次表に含めず③に記載しています。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
預け金	1,069,128	1,068,829	△299
金銭の信託			
運用目的の金銭の信託	450	450	—
その他の金銭の信託	32,315	32,315	—
有価証券			
その他有価証券	483,492	483,492	—
貸出金	244,112		
貸倒引当金	△1,492		
貸倒引当金控除後	242,619	244,963	2,343
資産計	1,828,006	1,830,050	2,044
貯金	1,693,016	1,694,860	1,843
借入金	58,200	58,136	△63
負債計	1,751,216	1,752,997	1,780
デリバティブ取引			
ヘッジ計が適用されているもの	85	85	—
デリバティブ取引計	85	85	—

(注)1.貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

2.貸出金には、連結貸借対照表上のその他資産に計上している従業員貸付金26百万円を含めています。

3.貯金には、連結貸借対照表上の譲渡性貯金10,000百万円を含めています。

4.デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目について、()で表示しています。

②金融商品の時価の算定方法

【資産】

a 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預け金については、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 金銭の信託

信託財産を構成している貸出金や有価証券の時価は、下記c及びdと同様の方法により評価しています。

c 有価証券

株式及び投資証券は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によります。また、投資信託については、公表されている基準価額又は取引金融機関等から提示された価格によります。

d 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引き、貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

a 貯金

要求払貯金については、連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金の時価は、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

【デリバティブ取引】

デリバティブ取引は通貨関連取引(為替予約)であり、取引金融機関から提示された価格によります。

③時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

	連結貸借対照表計上額
外部出資	75,898百万円

(注)外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としていません。

④金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	1,069,128	-	-	-	-	-
有価証券						
その他有価証券のうち満期があるもの	54,461	51,624	58,988	31,999	41,524	179,147
貸出金	71,297	26,715	18,118	20,717	10,279	96,877
合計	1,194,887	78,339	77,107	52,717	51,803	276,025

(注)1.貸出金のうち、当座貸越(融資型を除く)28,799百万円については「1年以内」に含めています。

2.貸出金のうち、3か月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等84百万円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

⑤借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	1,575,736	54,200	52,864	147	49	19
譲渡性貯金	10,000	-	-	-	-	-
借入金	-	2,700	7,100	18,400	-	30,000
合計	1,585,736	56,900	59,964	18,547	49	30,019

(注)1.貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。

2.借入金のうち、期限のない劣後特約付借入金30,000百万円については、「5年超」に含めています。

5 有価証券に関する事項

(1)有価証券の時価及び評価差額等に関する事項は次のとおりです。

①その他有価証券

その他有価証券において、種類毎の取得原価、連結貸借対照表計上額及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:百万円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	8,821	3,906	4,914
	債券			
	国債	192,161	184,189	7,971
	地方債	19,903	19,392	510
	社債	111,632	106,976	4,655
	その他	58,615	55,939	2,676
	その他	46,471	37,667	8,803
	小計	437,603	408,071	29,532
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	123	147	△24
	債券			
	国債	2,873	2,942	△69
	地方債	397	400	△2
	社債	9,669	9,731	△61
	その他	17,761	18,320	△558
	その他	15,063	15,470	△406
	小計	45,888	47,011	△1,123
合計		483,492	455,083	28,408

(注)上記差額合計から繰延税金負債7,852百万円を差し引いた金額20,556百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

(2)当連結会計年度中に売却したその他有価証券は次のとおりです。

(単位：百万円)

	売却額	売却益	売却損
株式	19	0	—
債券	23,674	108	625
その他	1,681	148	43
合計	25,375	257	669

6 金銭の信託に関する事項

金銭の信託の保有目的区分別の内訳は次のとおりです。

(1)運用目的の金銭の信託

連結貸借対照表計上額	450百万円
当連結会計年度の損益に含まれた評価差額	29百万円

(2)その他の金銭の信託

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	32,315	31,902	412	545	132

(注)1.上記差額合計から繰延税金負債114百万円を差し引いた金額298百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。
2.「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。

7 退職給付に関する事項

(1)退職給付

①採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、職員退職給付規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部に充てるため、全国共済農業協同組合連合会との契約に基づく確定給付企業年金制度を採用しています。なお、退職給付に係る債務及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

②確定給付制度

a 退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付に係る負債	796百万円
退職給付費用	95百万円
退職給付の支払額	△20百万円
制度への拠出額	△19百万円
期末における退職給付に係る負債	852百万円

b 退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

退職給付債務	1,376百万円
年金資産	△524百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	852百万円
退職給付に係る負債	852百万円

c 退職給付に関する損益

勤務費用	95百万円
臨時に支払った割増退職金	1百万円
退職給付費用	96百万円

(2)人件費には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条の規定に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金を含めて計上しています。なお、当連結会計年度において存続組合に対して拠出した特例業務負担金の額は、17百万円となっています。また、存続組合により示された平成30年3月現在における平成44年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、222百万円となっています。

8 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

繰延税金資産	
貸倒引当金超過額	187百万円
賞与引当金超過額	31百万円
退職給付引当金超過額	236百万円
県相互援助積立金超過額	852百万円
有価証券有税償却額	8百万円
未払事業税	0百万円
資産除去債務	6百万円
繰越欠損金	97百万円
その他	23百万円
繰延税金資産小計	1,443百万円
評価性引当額	△1,060百万円
繰延税金資産合計(A)	383百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△7,967百万円
固定資産圧縮積立金	△140百万円
資産除去債務	△0百万円
繰延税金負債合計(B)	△8,107百万円
繰延税金負債の純額(A) + (B)	△7,724百万円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な要因

法定実効税率	27.66%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.24%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.85%
事業分量配当金	△9.51%
住民税均等割等	0.08%
評価性引当額の増減	△8.29%
繰戻還付に伴う差異	△0.27%
その他	△0.03%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	8.04%

9 資産除去債務に関する事項

当会は、賃借物件の一部について不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有していますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

●平成30年度注記表(連結)

1 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 連結の範囲に関する事項
連結子会社 1社 株式会社新潟ジェイエイバンクサービス
- (2) 持分法の適用に関する事項
持分法適用の関連会社 1社 株式会社新潟県農協電算センター
- (3) 連結される子会社及び子法人等の事業年度に関する事項
連結子会社及び持分法適用の関連会社の決算日はすべて3月31日です。
- (4) のれんの償却に関する事項
のれんの償却については、発生年度に全額償却しています。
- (5) 剰余金処分項目等の取扱いに関する事項
連結剰余金計算書は、連結会計期間において確定した剰余金処分に基づいて作成しています。
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲
連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」並びに「預け金」中の当座預け金、普通預け金、通知預け金です。

2 重要な会計方針に関する事項

- (1) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しており、金額百万円未満の科目については「0」で表示しています。
- (2) 有価証券(外部出資決定の株式を含む)の評価基準及び評価方法は、有価証券の保有目的区分毎に次のとおり行っています。
 - ・ その他有価証券………時価のあるものについては、原則として連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、原価法(売却原価は移動平均法により算定)によっています。
 - なお、取得価額と券面金額との差額のうち金利調整と認められる部分については償却原価法による取得価額の修正を行っています。
- (3) 金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価基準及び評価方法は、上記(2)の有価証券と同様の方法によるほか、運用目的の金銭の信託については時価法によっており、信託の契約単位毎に当連結会計年度末の信託財産構成物である資産及び負債の評価額の合計額をもって連結貸借対照表に計上しています。
- (4) デリバティブ取引の評価は、時価法により行っています。
- (5) 有形固定資産の減価償却は、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用し、資産から直接減額して計上しています。また、主な耐用年数は次のとおりです。
 - ・ 建 物………38年～50年
 - ・ その他………5年～18年
- (6) 無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しています。そのうち自社利用ソフトウェアについては、当会における利用可能期間(5年)に基づいて償却しています。

(7) 外貨建資産は、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しています。

(8) 引当金の計上方法

① 賞倒引当金

賞倒引当金は、「経理規程附属書 資産の償却・引当の計上基準」に則り、次のとおり計上しています。

正常先債権及び要注先債権(要管理債権を含む)に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、賞倒実績率等に基づき算定した額を計上しています。

破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額、保証による回収可能見込額並びに債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積って算出した回収可能額を控除した残額を計上しています。

破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しています。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しています。

② 賞与引当金

賞与引当金は、職員への賞与の支払に備えるため、職員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しています。

③ 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員の退任給与の支給に備えるため、「役員退職慰労金規程」に基づき、当連結会計年度末要支給見積額を計上しています。

(9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債は、職員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における職員の自己都合退職の場合の要支給額を基礎として計上しています。

(10) ヘッジ会計の方法

リスク管理規程及びヘッジ取引の方針に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしています。

① 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建有価証券から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は時価ヘッジによっています。

ヘッジ有効性評価の方法については、ヘッジ手段である先物為替予約取引によりヘッジ対象である外貨建有価証券の為替変動リスクが低減されることを、為替相場の変動割合に基づく比率分析によって確認することで行っています。

(11) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という)の会計処理は、税抜方式によっています。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上していません。

(追加情報)

『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度から適用しています。

3 連結貸借対照表に関する事項

- (1)有形固定資産の減価償却累計額は2,515百万円です。
有形固定資産の圧縮記帳額は194百万円です。
- (2)資産のうち為替決済等の担保として預け金30,000百万円、先物取引証拠金等の代用として有価証券1,028百万円を差し入れています。
- (3)当会の理事、経営管理委員及び監事との間の取引による金銭債権はありません。
- (4)当会の理事、経営管理委員及び監事との間の取引による金銭債務はありません。
- (5)貸出金のうち、破綻先債権額は36百万円、延滞債権額は798百万円です。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。
- (6)貸出金のうち、3か月以上延滞債権はありません。
なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しない貸出金です。
- (7)貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は154百万円です。
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しない貸出金です。
- (8)破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は989百万円です。
なお、(5)から(8)に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。
- (9)割引手形は、業種別監査委員会報告第24号に基づき、金融取引として処理しています。
これにより受け入れた商業手形は、自由に処分できる権利を有していますが、その額面金額は139百万円です。
- (10)当座貸越契約及び貸出金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約です。これらの契約に係る融資未実行残高は、116,288百万円です。
- (11)貸出金には、他の債権よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付貸出金32,549百万円が含まれています。
- (12)借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金30,000百万円が含まれています。

4 金融商品に関する事項

(1)金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当会は、新潟県を事業区域として、地元のJA等が会員となって運営されている相互扶助型の農業専門金融機関であり、地域経済の活性化に資する地域金融機関です。

JAは、農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域へ貸付け、その残りを当会が預かる仕組みとなっています。

当会では、これを原資として、資金を必要とするJAや農業に関連する企業・団体及び県内の地場企業や団体、地方公共団体などに貸付を行っています。

また、残った資金は農林中央金庫に預け入れるほか、国債や地方債等の債券、投資信託、株式等の有価証券による運用を行っています。

②金融商品の内容及びそのリスク

当会が保有する金融資産は、主として県内の取引先及び個人に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、その他目的で保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、市場価格の変動リスクに晒されています。

借入金には、自己資本増強の一環として、会員である地元のJAから借り入れた永久劣後特約付借入金が含まれています。

劣後特約付借入金は、債務返済の履行が他の債務よりも後順位である旨の特約が付された無担保・無保証の借入金であり、自己資本比率の算出において適格旧資本調達手段として経過措置により自己資本への計上が認められているものです。

デリバティブ取引には、為替リスクヘッジの一環で行っている先物為替予約取引があります。当会では、先物為替予約取引をヘッジ手段として、ヘッジ対象である外貨建有価証券の為替変動に係る損益を認識する方法(時価ヘッジ)を適用しています。

③金融商品に係るリスク管理体制

a 信用リスクの管理

当会は、リスクマネジメントの基本方針及び信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金の信用リスク管理については、個別案件毎の与信審査、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応など信用管理に関する体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、融資部及び農業部のほかリスク統括部(審査・管理業務担当)により行われ、また、定期的に理事会やリスク管理委員会を開催し、経営陣に報告を行っています。さらに与信管理の状況については、リスク統括部(リスク管理業務担当)がチェックしています。

有価証券の発行体の信用リスクに関しては、リスク統括部(リスク管理業務担当)において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

b 市場リスクの管理

(a) 金利リスクの管理

当会は、リスクマネジメントの基本方針及び金利リスクに関する管理諸規程に基づき、リスク統括部を主管部署として、当会の資産に占めるウェイトが大きく市場性資産として日々価格が変動する有価証券については毎営業日、貸出金、預け金及び貯金については月次でそれぞれ金利リスク量を計測・管理しています。

また、金利感応性のあるすべての資産・負債・オフバランスの金利リスク量についても、上方パラレルシフト等複数の金利ショック・シナリオによるリスク量を毎月計測・管理しています。

これらの情報については理事会及びリスク管理委員会において定期的に報告されています。

(b) 為替リスクの管理

当会は、為替リスクに関して、個別の案件毎に管理しており、必要に応じて先物為替予約取引によるリスクヘッジを図っています。

(c) 価格変動リスクの管理

有価証券を含む投資商品の保有については、リスク管理方針に基づき、理事会の監督の下、余裕金運用規程に従って行われています。

運用にあたっては、運用限度額を設定し、事前審査のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの管理を行っています。

これらの情報はリスク統括部を通じ、理事会及びリスク管理委員会において定期的に報告されています。

なお、総務部で保有している外部出資の多くは、業務上事業推進目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしています。

(d) デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、ヘッジ有効性の評価、事務管理に関する部門や役割をそれぞれ分離し内部牽制を確立するとともに、リスクマネジメントの基本方針等に基づいて実施されています。

(e) 市場リスクに係る定量的情報

当会で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当会において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「預け金」、「貸出金」、「有価証券」のその他有価証券に分類される債券、「貯金」、「借入金」です。

当会では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当連結会計年度末現在、指標となる金利が0.15%上昇したものと想定した場合には、経済価値が3,660百万円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

c 資金調達に係る流動性リスクの管理

当会は、ALM委員会及び資金運用検討委員会を通じて、適時に資金管理を行うほか、市場環境を考慮した長短の調達バランス調整などによって、流動性リスクを管理しています。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価(時価に代わるものを含む)には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額(これに準ずる価額を含む)が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なる場合もあります。

(2)金融商品の時価等に関する事項

①金融商品の連結貸借対照表計上額及び時価等

当連結会計年度末における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。

なお、時価の把握が困難なものについては、次表に含めず③に記載しています。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時 価	差 額
預 け 金	1,048,126	1,048,174	47
金 銭 の 信 託			
運用目的の金銭の信託	433	433	—
その他の金銭の信託	40,361	40,361	—
有 価 証 券			
その他有価証券	527,039	527,039	—
貸 出 金	249,789		
貸倒引当金	△1,394		
貸倒引当金控除後	251,183	253,919	2,735
資 産 計	1,867,146	1,869,929	2,782
貯 金	1,733,882	1,736,025	2,143
借 用 金	66,200	66,200	—
負 債 計	1,800,082	1,802,225	2,143
デリバティブ取引			
ヘッジ計が適用されているもの	(20)	(20)	—
デリバティブ取引計	(20)	(20)	—

(注)1. 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

2. 貸出金には、連結貸借対照表上のその他有価証券に計上している従業員貸付金11百万円を含めています。

3. デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目について、()で表示しています。

②金融商品の時価の算定方法

【資産】

a 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預け金については、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 金銭の信託

信託財産を構成している貸出金や有価証券の時価は、下記c及びdと同様の方法により評価しています。

c 有価証券

株式及び投資証券は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっています。また、投資信託については、公表されている基準価額又は取引金融機関等から提示された価格によっています。

d 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引き、貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。また、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

a 貯金

要求払貯金については、連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金の時価は、期間に基づく区分毎に、元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

b 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっています。固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートである円Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

【デリバティブ取引】

デリバティブ取引は通貨関連取引(為替予約)であり、取引金融機関から提示された価格によっています。

③時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

	連結貸借対照表計上額
外部出資	92,431百万円

(注)外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としていません。

④金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預け金	1,048,126	-	-	-	-	-
有価証券						
その他有価証券のうち満期があるもの	52,208	58,850	35,517	43,539	44,541	218,245
貸出金	72,617	19,222	28,042	14,855	19,160	95,819
合計	1,172,952	78,073	63,559	58,395	63,702	314,064

(注)1.貸出金のうち、当座貸越(融資型を除く)24,190百万円については「1年以内」に含めています。また、期限のない劣後特約付貸出金32,549百万円については「5年超」に含めています。
2.貸出金のうち、3か月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等76百万円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

⑤借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金	1,644,203	56,453	33,130	49	41	4
借入金	2,600	6,600	17,000	10,000	-	30,000
合計	1,646,803	63,053	50,130	10,049	41	30,004

(注)1.貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。
2.借入金のうち、期限のない劣後特約付借入金30,000百万円については、「5年超」に含めています。

5 有価証券に関する事項

(1)有価証券の時価及び評価差額等に関する事項は次のとおりです。

①その他有価証券

その他有価証券において、種類毎の連結貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:百万円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	8,150	3,771	4,379
	債券			
	国債	155,597	147,779	7,817
	地方債	17,206	16,896	309
	社債	125,763	121,011	4,752
	その他	87,643	84,326	3,317
	その他	87,169	77,732	9,437
	小計	481,531	451,517	30,014
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	183	203	△20
	債券			
	国債	-	-	-
	地方債	-	-	-
	社債	703	712	△9
	その他	16,523	16,644	△120
	その他	28,098	28,534	△436
	小計	45,508	46,096	△587
合計		527,039	497,613	29,426

(注)上記差額合計から繰延税金負債8,131百万円を差し引いた金額21,295百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。

(2)当連結会計年度中に売却したその他有価証券は次のとおりです。

(単位：百万円)

	売却額	売却益	売却損
株式	99	—	38
債券	28,233	642	678
その他	1,007	150	121
合計	29,340	793	839

6 金銭の信託に関する事項

金銭の信託の保有目的区分別の内訳は次のとおりです。

(1)運用目的の金銭の信託

連結貸借対照表計上額	433百万円
当連結会計年度の損益に含まれた評価差額	△5百万円

(2)その他の金銭の信託

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの
その他の金銭の信託	40,361	40,222	139	571	△431

(注)1. 上記差額合計から繰延税金負債38百万円を差し引いた金額100百万円が、「その他有価証券評価差額金」に含まれています。
2. 「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」は、それぞれ「差額」の内訳です。

7 退職給付に関する事項

(1)退職給付

①採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、職員退職給付規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部に充てるため、全国共済農業協同組合連合会との契約に基づく確定給付企業年金制度を採用しています。なお、退職給付に係る債務及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

②確定給付制度

a 退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付に係る負債	852百万円
退職給付費用	93百万円
退職給付の支払額	△130百万円
制度への拠出額	△19百万円
期末における退職給付に係る負債	795百万円

b 退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

退職給付債務	1,296百万円
年金資産	△500百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	795百万円
退職給付に係る負債	795百万円

c 退職給付に関する損益

勤務費用	93百万円
臨時に支払った割増退職金	17百万円
退職給付費用	111百万円

(2)人件費には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条の規定に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金給付等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金を含めて計上しています。なお、当連結会計年度において存続組合に対して拠出した特例業務負担金の額は、17百万円となっています。また、存続組合により示された平成31年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、212百万円となっています。

8 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

繰延税金資産	
貸倒引当金超過額	158百万円
賞与引当金超過額	31百万円
退職給付引当金超過額	220百万円
県相互援助積立金超過額	870百万円
有価証券有税償却額	9百万円
資産除去債務	6百万円
未払奨励金損金否認額	201百万円
未払事業税	40百万円
その他	23百万円
繰延税金資産小計	1,562百万円
評価性引当額	△1,047百万円
繰延税金資産合計(A)	514百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△8,169百万円
固定資産圧縮積立金	△134百万円
資産除去債務	△0百万円
繰延税金負債合計(B)	△8,305百万円
繰延税金負債の純額(A) + (B)	△7,790百万円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な要因

法定実効税率	27.66%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.25%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.02%
事業分量配当金	△10.29%
住民税均等割等	0.09%
評価性引当額の増減	△0.25%
特別控除(中小企業所得拡大税制)	△0.13%
繰越税額控除効果に伴う差異	0.28%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	15.58%

9 資産除去債務に関する事項

当会は、賃借物件の一部について不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有していますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。